

小川 巖 氏



昭和20年 8月松前町生まれ
 昭和44年 3月信州大学農学部林学科卒
 昭和45年 3月同上 専攻科修了
 昭和47年 3月北海道大学農学研究科
 修士課程修了
 昭和51年 3月同上 博士課程単位取得
 昭和53年 7月北海道生活環境部採用
 昭和59年 4月野生生物情報センター
 代表委員
 昭和59年 4月札幌学院大学非常勤講師
 (継続中)
 平成 4年 4月エコ・ネットワーク代表
 (継続中)
 平成21年 4月酪農学園大学教授
 (継続中)
 平成24年 4月フットパス・ネットワーク
 北海道(FNH)事務局長

フットパスとしての石狩川を歩く楽しみ

(第十一回 十一月二十九日)
 フットパスとはイギリス発祥の「歩く道」のこと。米国のトレイルやウォークウェイも同じ意味。けれど、国によって歩行者の「権利」はかなり違う。イギリスは一九三二年「歩く権利法」を制定、総延長二十万キロ以上の道が全国を網羅する。道内もこの十年目覚しく普及した。現在、四十を超える市町村に百以上のコースが存在。ひとつの町だけに留まらず、隣接する町々をつなぐ形の「ロングトレイル化」も進んだ。二〇〇八年「日本フットパス協会」、十二年に「フットパス・ネットワーク北海道」も発足した。歩くのは農道、林道、遊歩道

だけでなく、川の堤防(管理用道路)や河川敷も良好なコース。石狩川水系は最適。もし、河口から大雪山の麓まで約二百キロがつながればと思うとワクワクする。しかし、現実には厳しい。コースが途切れている。大部分が舗装で砂利道が多いなど。人ひとりが通行可能な橋や幅一米ートルにチップを敷くなどの整備は不可欠だ。欲を言えばベンチ、トイレがある「寄り道所」も欲しい。四つ河川に囲まれる南幌では「輪中(わじゅう)約四十五キロ」構想が出来つつある。農業、食、歴史文化などを絡めた新しい活動や文化が生まれるだろう。九州は韓国の済州島を参考に「九州一周コース」を作ろうとしている。滞在時間の長い観光だけではなく、ニュービジネスの発生も期待していること。北海道におけるフットパスのトレンドは地域資源を生かした个性的豊かなロングトレイル作りだ。ソフト充実で個人、グループに喜んでもらおう。

「湿原の保護」=辻井達一氏の遺志 石狩川フォーラム報告

マガンから見た流域の湖沼と農地

れる。原因は渡り鳥のフン。水質の富栄養化による植物の堆積や地すべりで浅底化が進む。年に一センチ、五〇年後に「消失」する計算だ。待ったなしの対策として周辺の土地利用を工夫する試みを開始。何せ農家にとっては渡り鳥は「害鳥」だが、「消費者」「農家」「環境」それぞれにプラスになる「ふゆみず田んぼ in 宮島沼」を展開している。「無農薬・有機栽培」によって「安全・安心」(土作りなどのコス

よる水質改善実験も開始。農業と宮島沼の両立を目指す。フットパス宮島沼の開催で農家との連携も徐々に出来てきた。農地の生産性と生物多様性との融合は可能。ピオトープを念頭に流域湖沼や「遊水池」をつなげる構想は有意義である。

(第十回 十月二十五日)
 ラムサール湿地「宮島沼」の保全と賢明な利用を進めようと取り組んでいる。春と秋に七万羽を超えるマガンで賑わう小さな沼が、消滅の危機にある。かつて四〇ヘクタール近くあつた水面は二五ヘクタールに縮小し、透明で飲料水にも利用していたと言ふ水はペンキを流したようなアオコで覆わ

ト減「乾燥化防止」を狙った。田んぼオーナー制で体験学習の場にも。土作りを担う「イトミミズ」も繁殖、珍しい野鳥の飛来も確認できた。一方、ヘドロを客土に利用する実験や埋土種子の発芽に

牛山 克巳 氏



1974年 12月 ナイロビ生まれ
 1997年 3月 北海道大学農学部
 生物資源学科卒業
 1999年 3月 東京大学大学院
 農学生命科学科
 修士課程終了
 2003年 5月 東京大学大学院
 農学生命科学科
 博士課程終了
 2003年 6月 美唄市役所勤務
 (宮島沼水鳥 湿地センター)
 [日本湿地学会事務局長]

鉦路湿原やサロベツ湿原とよく似ている。だが、近年の乾燥化などによる生態系の変化によって、個体数も森林性鳥類が灌木・草原性鳥類に迫る勢い。自然草原の減少し、代替の生息地が畑や牧草地などになったことも原因のひとつ。草原に牛を放牧した結果、繁殖鳥類は種類で十三から八、ツガイが三六から十八に激減した。コヨシキリはゼロに、また、ノビタキなどは繁殖に失敗した。繁殖環境の悪化は極めて深刻だ。鳥学会の二〇一三年度名古屋大会では灌木・草原性鳥類の保護を目標にした「提言」があった。ハビタット評価と保全優先指数による保護区を選定するとともに生息場所として「幼齢人工林」などの利用だ。河川敷の森林化が進んでいるので、今後の河川管理はより重要。堤防面の草刈を繁殖後にするなど人間の配慮が不可欠である。

藤巻 裕蔵 氏



1938年 12月 東京都生まれ
 1966年 3月 北海道大学大学院
 農学研究科博士課程終了
 同年 4月 北海道立林業試験場
 研究職員
 1975年 10月 帯広畜産大学助教授
 1987年 11月 帯広畜産大学教授
 2002年 3月 同大学を定年退職
 現 帯広畜産大学名誉教授
 山階鳥類研究所特任研究員
 2000年 山階芳麿賞受賞

石狩川下流部沿いの鳥類相

(第九回 九月二十七日)
 石狩市から深川市間の河川敷で繁殖期に鳥類調査、五十六種を観察した。迷い鳥を除くと北海道で繁殖するのは五十種。日本鳥学会の目録(写真で現認したものを採用)では北海道には四七二種、石狩地方では三二〇種とされている。生息地別では水辺性二〇%、灌木・草原性三二%、森林性四二%、その他六%。だが、観察個体数別は水辺性八%、灌木・草原性六九%、森林性四二%、その他三%。結果は森林性の種類が多く、個体数は灌木・草原性の鳥類が多い。石狩川下流部河川敷の灌木・草原性鳥類の生息環境は